



第二回おくださん未来衆会議のご報告

土居好江



2024年9月15日撮影

8月31日に開催予定だったおくださん未来衆会議は台風のために延期して、9月15日に開催させて頂きました。当日はお仕事の為、欠席者も多かったのですが、おくださんを使っている方々の切実な本音をお聞きして、未来衆会議独特の内容だったと感動しています。

まず、最初に土居好江から創立25年目指して、京すずめ、おくださん等の取組についてお話をさせて頂きました。(別途詳細はお知らせ致します)

また、創業1024年目のあぶり餅一和のご当主長谷川検一さんから、「千年続く茶店の経営哲学とおくださんと井戸」と題して千年前の創業当時の様子をお話頂きました。

「あぶり餅のルーツは、初代一文字屋和輔が、香隆寺(現在は廃寺)にお供えていたおかちん(勝餅:かちもち)を新しい神社・今宮神社にお供えしたのが始まりと言い伝えられています。疫病退散の祭事で奉納されたかき餅のお下がりを竹串に刺して焼いて食べていた香隆寺がルーツとなります。

あぶり餅一和の創業は平安時代、西暦1000年、神様の前でお供えして下げて頂くので、神さんごとの家業です。神社さんの附属物というコンセプトで運営しているので、男衆は外で働き、女衆が店を仕切っています。

ですから、ご奉仕という姿勢を創業以来貫いています。応仁の乱の時も炊き出しをして、皆様に食べて頂きました。神さんごとの家業ですから、お客様のお申し出の皿の数で現金商売をしています。

『枕草子』や『源氏物語』にも風景描写であぶり餅一和のことが描かれています。

おくださんに火の神様は宿っていると思います。

以上

